

私人が国際機構の活動から何らかの害を受ける（と考える）場合、どのような手続で国際機構に対し損害賠償請求や行為の差し止めなどを請求できるか。後日学ぶように、国際機構は国内裁判権からの免除を享有し、国内裁判所に訴えても訴えは却下されるのが通常である。EU の場合、私人が EU を訴える司法的手続が用意されている（[EU 運営条約](#) 263 条 4 段）が、それ以外の国際機構では、何らかの国際的な手続は存在するか。

1. 不服申立制度 世界銀行 Inspection Panel

[国際復興開発銀行](#)(IBRD)および[国際開発協会](#)(IDA)（合わせて「世界銀行」）は、[両理事会の 1993 年の決議](#)により、世界銀行の内部機関として [Inspection Panel](#) を設置した。同 Panel は、世界銀行が融資を行うプロジェクトに関して、世界銀行の業務政策¹の不遵守により被害を被ったと主張する私人からの申立を審査する。審査手続の[途中経過および関連文書は公開](#)され、審査結果は世界銀行理事会に報告される（手続の詳細は、[Operating Procedures, updated in February 2016](#)）²。類似の手続は、[他の地域開発銀行等](#)にも設けられている。

この手続は、「紛争処理手続」と性格づけられるか？ また、このような手続はどの程度実効的だと考えられるか？

2. 仲裁

既に述べたとおり、仲裁で紛争処理するためには紛争当事者間でのその旨の合意が必要であるため、現実には私人対国際機構の紛争において問題が仲裁で処理されるのは稀である。

その稀な例が、[国際決済銀行対 Reineccius ほか](#)である。[国際決済銀行\(BIS\)](#)（[日銀サイト](#)）³は、1930 年の創設時、私人による出資も想定しており、実際に米連邦準備委員会・フランス銀行およびスイス銀行を通じて私人が BIS の株式を購入した。2001 年になり、BIS は私人が保有する株式を強制的に購入（収用）することを決定し、金額を設定した。これに対し、当該購入の合法性や、金額を争って 3 名の私人が仲裁を申し立てた。このような仲裁が可能であったのは、賠償金問題の完全かつ最終的な解決に関する条約（1930 年）の 15 条に仲裁による紛争処理を定める規定があり、かつ、紛争当事者のいずれもが仲裁廷の管轄権を争わなかった⁴（上記 15 条には私人による申立が可能とは明示

¹ 「[業務政策 operational policies](#)」は、世界銀行の業務に際して職員が遵守すべき規則として世界銀行により設定されるものである（山元良「国際法実現過程におけるソフト・ローの機能」国際法外交雑誌 112 巻 4 号（2014 年）599 頁、613-617 頁）。

² 桐山孝信「世界銀行における開発と人権の相克」国際法外交雑誌 102 巻 4 号（2004 年）589 頁、藤田早苗「世界銀行と人権の主流化」国際人権 19 号（2008 年）124 頁、佐俣紀仁「世界銀行のアカウントビリティとインスペクション・パネルの機能」国際法外交雑誌 113 巻 4 号（2015 年）620 頁。

³ [矢後和彦「国際決済銀行の過去と現在」](#)（成城大学）経済研究所年報 26 号（2013 年）97 頁。

⁴ *Reineccius et al. v. Bank for International Settlement, Partial Award, 22 November 2002, para. 29.* BIS

的には書かれておらず、管轄権を争う余地はあった）ことによる。

3. 請求委員会

2016 年 11 月 15 日の閣議決定において、南スーダンに派遣されている自衛隊部隊に「駆け付け警護」の任務が付与された（国際平和協力法 3 条 5 号ト・ラ、26 条）。

自衛隊は、UNMISS の一部として活動していた。南スーダンにおける UNMISS の法的地位に関する諸問題は、国連と南スーダン政府との間で締結された地位協定(SOFA)に定められている。その 55 条は、

55. Except as provided in paragraph 57, any dispute or claim of a private law character, not resulting from the operational necessity of UNMISS, to which UNMISS or any member thereof is a party and over which the courts of South Sudan do not have jurisdiction because of any provision of the present Agreement shall be settled by a standing claims commission to be established for that purpose. One member of the commission shall be appointed by the Secretary-General of the United Nations, one member by the Government and a chairman jointly by the Secretary-General and the Government. If no agreement as to the chairman is reached within thirty (30) days of the appointment of the first member of the commission, the President of the International Court of Justice may, at the request of either the Secretary-General of the United Nations or the Government, appoint the chairman. Any vacancy on the commission shall be filled by the same method prescribed for the original appointment, provided that the thirty-day period there prescribed shall start as soon as there is a vacancy in the chairmanship. The commission shall determine its own procedures, provided that any two members shall constitute a quorum for all purposes (except for a period of thirty (30) days after the creation of a vacancy) and all decisions shall require the approval of any two members. The awards of the commission shall be final. The awards of the commission shall be notified to the parties and, if against a member of UNMISS, the Special Representative or the Secretary-General of the United Nations shall use his or her best endeavours to ensure compliance.

と定めており、このような規定は国連の平和維持活動において締結される SOFA に定型的なものである。しかし、そのような standing claims commission が実際に設立されたことはこれまでに一度もない。なぜだろうか。

その代わりに、国連部隊により被害を被った者が国連に対して請求を行う claims board あるいは claims review board が設置されることがある。上記の standing claims commission が上記のような構成により司法的役割を持つとされているのに対し、claims (review) board は国連職員により構成される国連の内部的機関であり⁵、行政不服申立手続に類似した手続である。Standing claims commission が設立されたことがないのに、claims (review) board なら設置されるのはなぜだろうか。

4. トラスト・ファンド

前項で述べた平和維持活動関連で被害者による請求可能性が議論されるのは、とりわけ国連平和維持活動要員による性的搾取・虐待との関連である⁶。性的搾取・実行者の

の法的地位については、後日改めて扱うので、ここではさしあたり BIS は国際機構の一種と理解しておけばよい。Reineccius 事件についてもその際に改めて議論する。

⁵ 吉田脩「国連平和維持軍請求委員会の史的考察」国際法外交雑誌 110 巻 1 号（2011 年）30 頁、岡田陽平「国連平和維持活動に従事する部隊構成員の行為の帰属（一）」法学論叢 174 巻 6 号（2014 年）107 頁、118 頁。

⁶ 金武真智子「国連平和維持要員の性的搾取・虐待に対する不寛容政策」日本国際連合学会

処罰・懲戒についても議論が必要であるが、ここでは、被害者が誰に対してどのような救済措置を請求することができるかを考える。

中央アフリカ共和国で生じた性的搾取・虐待問題について設置された独立パネル報告書([A/71/99](#))は、以下のように述べる。

4. The right of victims to a remedy

252. As a matter of principle, victims of conflict-related sexual violence should be compensated. In an armed conflict, however, individual remedies are often illusory. Furthermore, in many countries emerging from conflict, domestic judicial systems can be dysfunctional. Recourse against foreign perpetrators in their own domestic courts is most often not feasible, as victims do not have the resources to pursue accountability and to obtain a remedy.

253. In recognition of the difficulty faced by victims in accessing a remedy in such circumstances, victims should have access to the common trust fund proposed by the Secretary-General. **The trust fund is not intended to compensate individual victims in the form of reparations, but it would assist in the provision of the specialized services that victims of sexual violence require.** The trust fund proposed by the Secretary-General does not currently extend to victims of peacekeepers not under United Nations command. As detailed above, there is no principled basis for making this distinction. In the Panel's view, the trust fund should be available to all victims of sexual violence by peacekeepers, regardless of whether the perpetrator is under United Nations command.

254. The Panel acknowledges that the creation of the trust fund is just a small step towards remedying the harm resulting from conflict-related violence. Nevertheless, this would contribute to the recognition that the United Nations policies on sexual exploitation and abuse are inclusive and harmonized under a common human rights denominator, and could provide meaningful assistance to some victims of sexual violence.

Recommendation 7

Establish a trust fund to provide specialized services to victims of conflict-related sexual violence.

これを受けて、事務総長は [Trust Fund in Support of Victims of Sexual Exploitation and Abuse](#) を設立した([A/70/729](#), para. 76)。ファンドの資金は、国連加盟国からの自発的拠出金のほか、性的搾取・虐待を行った平和維持部隊要員に支払われるはずであった給与である（[総会決議 70/286](#), para. 75）⁷。このファンドの使い道についてはいろいろ提案がなされているが([A/71/818](#), para. 34)、損害賠償のためには用いられないという基本的理解は維持されている。なぜ損害賠償のためには用いられないのだろうか。

（編）『国連研究の課題と展望』（国際書院、2009 年）208 頁、尋木真也「国連平和維持活動（PKO）要員による性的搾取および虐待の規制」早稲田大学社会安全政策研究所紀要 8 号（2015 年）85 頁。

⁷ そのような要員に対して給与の支払いをしないことは既に[総会決議 65/289](#)により決定されていた（パラ 59）。